

酪農とちぎ



厳冬の茶臼岳

大寒

二月一日は旧正月の元旦、四日が立春。暖冬予報も一変し、低温・降雪が続き東北の連山も白銀の世界です。今年も所得税の確定申告期となり、皆さんにおかれましては決算書作成中かと察します。

従来の白色申告は、税務署から示された農業所得標準より所得を算出して申告することができましたが、平成十四年度分からこれらの標準課税制が廃止され、各人の収支決算書に基づき課税されることとなります。また、青色申告の場合は特別控除・専従者給与・損失金の翌年繰越し控除等の恩典がありますので是非青色申告をお奨めします。記帳は経営実態を把握し、経営改善・目標を設定するにも不可欠となりますので励行に心がけて下さい。



平成十五年度の 生乳計画生産について

平成十五年度生乳計画生産について、次の通り理事会において決定いたしましたので、概要についてお知らせ致します。

十五年度については、脱粉の過剰在庫が年度末には七ヶ月以上になるのではと懸念される点がありますが、関東生乳販連において打ち出された「域内の生産基盤に配慮した計画生産を行う、そのため期中において本会の販売数量を抑制する必要が生じた場合、計画生産にカウントされない処理（計画生産乳量以上となった場合はとも補償事業を活用し乳製品に処理して市場で販売しリスクについて負担する。）を行い、生産の意欲が低下しない対策を講じる。」を踏まえ、生乳の安定的な供給責任と個々の酪農家の経営基盤確立をめざし設定しました。

乳量の割当については、「自主申告乳量」を割当てる。（但し、自主申告乳量は月毎に申告）

年間の出荷乳量が超過又は未達した場合において金銭ペナルティーは課さない。

以上の二点を基本に十五年度生乳計画生産を実施することとなりましたが、生産にあたっては需要期生産を基本にお願い致します。生乳出荷奨励制度については、十四年度と比べ改定となった点がありますので説明いた

します。大きな相違点は、需要期出荷奨励制度の奨励単価が六月～十月の全出荷乳量に対しkg当り一律一・二円から、十五年度は六月～十月は同様の奨励単価ですが、最需要期である七月～九月はkg当り一・五円～二・四円の格差を設けたことです。これは、十四年度の夏場の需要期において特に生乳が逼迫状況となり、今後この傾向が続くことが予測されるため、乳業者への安定的な供給責任を果たすと共に、より有利な販売に努める事が必要となるためです。なお、需要期優良生乳出荷制度」については変更はありません。

ここで、昭和五十四年度から施行され二十四年間に亘り実施されている「生乳計画生産」について、その開始経緯及びその後の変遷、そして最近の取り組み状況等について述べてみたいと思います。

酪農家の皆さんにとっても、組合関係者にとってもある意味では非常に忌まわしい記憶として残っているであろう「計画生産」は今年から二十四年前（乳価が下がり始めた年）より実施され今日に至っております。昭和五十年代に入り需要の伸びが安定的に推移する一方で、生産は大幅な増産となり年毎に乳製品在庫が積みあがり、最終的にはバター・七ヶ月分、脱粉九・七ヶ月分にも達し新たに生産される製品の大半が在庫品との交換に回

る異常な事態でした。財政的にも大きな負担となり不足払い制度自体が崩壊するのではなにかとの状況になりました。また、乳業者は受乳拒否や乳価の引き下げを行い、生産者団体間での生乳の安売り販売競争が心配され、大混乱に陥ることが懸念されました。このため、国・生産者団体協議のもと、酪農の長期的安定を図るための生乳の生産調整、いわゆる計画生産を実施せざるを得ないとの苦渋の決断となり実施されたものです。この辺の経緯については今更述べるまでもなく、酪農家の皆さんがまさに身を削りながら大変な苦勞をし、多くの酪農家の離脱もある中進められたものでした。

この大変な混乱状況の中始まった計画生産下での乳量の推移は、当初の五十四～五十七年度は一～二%の低い増産、五十八～六十年度は過剰も解消され三～四%の増産、六十一～六十二年度は需要の停滞・減少により一～三%の減産、六十三年から平成四年度は需要の伸びにより再び三～四%の増産、五～六年度は需要の停滞・減少及びバターの過剰在庫から減産、七～九年度は一定の需要の回復が見込まれたことにより二～三%の増産、十～十三年度はバター在庫に配慮し一%程度のわずかの増産型となりました。平成十四年度についてはBSEの影響等により消費減が心配されたが前年並みの伸び率にあります。

昭和五十四年度計画生産が開始された全国の生乳生産量は六百四十五万一千トン（酪農家戸数十万户）が、平成十三年度実績では八百三十万トンと生産量は二十八%の伸びを示しているものの、逆に酪農家戸数は三万二千

二百戸と六十八%の減少となっております。栃木県においても五十四年度の二十万八千トン（都道府県別五位）が十三年度には三十三万五千トンと全国の伸び率を大幅に上回る、六十一%の伸びを示し北海道に次ぐ生産県となり、東京市乳園の原料乳供給地としての地位を確固たるものとしております。

近年における計画生産は、開始された頃の生産抑制を念頭とした考え方から生乳の需給の実態、乳製品在庫、地域の生産力に応じた内容に変わって来ております。また、全国的な酪農家戸数減少により、全体では低い伸び率であっても個々の酪農家ベースで見れば、ここ数年実質的に青天井となっております。

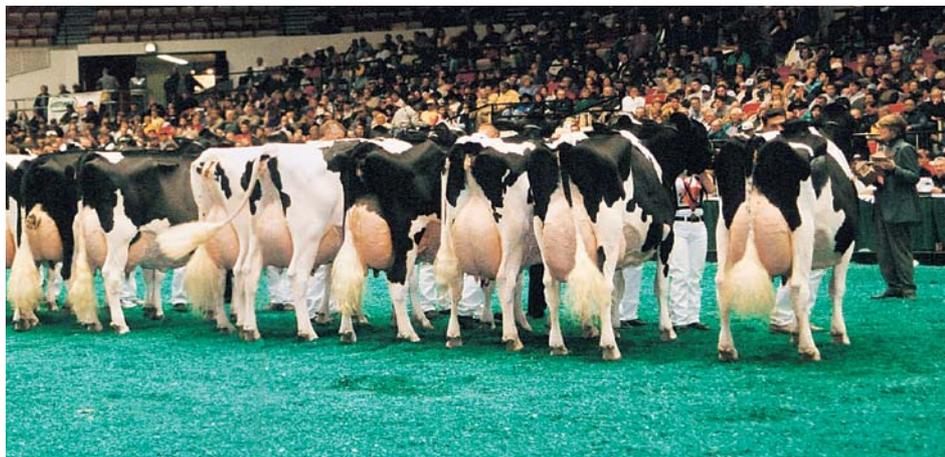
特に広域指定団体が設立された平成十二年より、ブロック内調整及び他の都府県の生産減もあり、生産意欲に配慮した計画生産となりました。特に平成十三年度は雪印事件の反動により飲用牛乳等向け生乳需要増が見込まれたことから増産型の計画生産となり、地域の酪農振興に配慮した仕組みが導入されました。これらの流れを受け、平成十四年度の基本的な考え方は、前年導入した手法を踏襲すると共に、地域の生産実態がより適切に反映されるよう、より生産力を重視する手法へとなりました。これらを踏まえ、本組合の十四年度の計画生産は、組合員からの自主申告乳量を割当てることとし、個々の生産基盤の確立に資する計画としました。

十五年度の計画生産についても冒頭で述べた通り、十四年度と同様の内容とし、今後とも本県酪農の持続的・安定的発展を図るための計画生産とするよう努めて参ります。



米国・欧州酪農研修に 後継者九名参加

酪農とちぎでは後継者育成対策の一環として、「後継者海外派遣酪農研修制度」を策定しておりますが、昨年九名の後継者が研修を積んで参りました。



この研修制度は、明日の酪農を担う後継者が海外酪農先進地において酪農事情及び生活等の実態を視察・体験することにより国際的経営感覚を養成することを目的に講じた助成措置です。

昨年度は、十七歳から三十歳の後継者が米国へ四名、欧州に五名が参加して貴重な体験をされました。参加された方々は次の通りです。

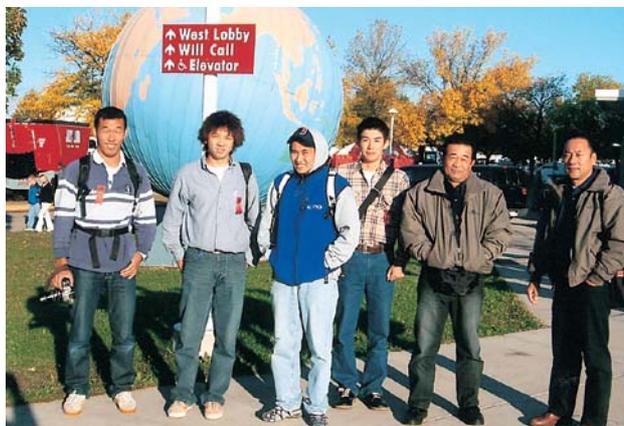
米国	黒磯市	小針 勤 氏	塩原町	白井 重忠 氏
欧州	那須町	清野 剛之 氏	黒磯市	竹内 真人 氏
〃	〃	高根沢隆史 氏	〃	〃
〃	〃	熊谷 雄規 氏	〃	〃

〃 南那須町 中山 智之 氏
 〃 高根沢町 鈴木 積 氏
 ここにレポートを頂いた中より二名の感想を紹介します。

ワールド・デイルリー・ エキスポ研修に参加して

黒磯市青木 小針 勤

十月上旬の最も畑仕事の忙しい時期でしたが、(株)協同飼料主催の二〇〇二年アメリカ・ワールド・デイルリー・エキスポ研修ツアーが計画されると聞いて、長年の思い



仲間と共に(左端:小針氏)

を実現したいと思い参加しました。理由は、牛舎建築を予定していることや、平成十七年開催の栃木全共に向けてショウの先進地アメリカの雰囲気味わってみたかったからです。

十月三日に日本を出発し、翌日から牧場見学。はじめに「トリポリ」のファミリーで有名なジェフリーウエイ牧場を見学しました。その中でも、ハンター及びフォーメーションの娘が分娩したばかりでしたが、素晴らしい乳房を見て感動しました。また、案内の方がこの牛の受精卵の買取り希望を取っていることを聞き、アメリカのビジネスの速さに驚きを感じたところです。

次は「エレガンス」のファミリーで有名なクラル牧場を見学しました。この牧場は毎日何組もの見学者が来場しており注目度の高さが伺えました。エレガンスの子供は、シルキーで正確な骨格を伝えてくれると言う話で、改めてファミリーの重要性を感じました。



さて、シヨウの見学ですが主にブース回りをしてカタログを貰ったり、お気に入りの牛を探しに牛舎を探索したりしました。レデュークの強さにはビックリしました。栃木全共にもレデュークの予感がします。翌日も著名な牛の状態をチェックに会場の牛舎に行きました。やはり前評判の高い牛はどれも素晴らしい状態で、本当に自分の家と同じホルスタインかと思うくらいでした。初産クラスではジエド系のクストー、ギブソンが非常に良い乳房を付けていました。また、リンジェットも多数出品されましたが、どれも素晴らしい乳房で大変驚きました。ある意味ここまでくると、ホルスタインの域を越えている感じを受けました。もし、この様な牛が自分の牛群にいたら何ともいえない気分でしょう。

強行な日程での久しぶりの海外でしたが、ツアーで行ったために多くの全国の酪農家と知り合いになれたことも幸いでした。帰国後参加者名簿で確認したところ、有

名な酪農家の方だったり、大学の同級生も一緒だったり、世間は本当に狭いものです。短い期間でしたが、充実した研修旅行でした。最後に、(株)協同飼料並びに酪農とちぎのご支援を頂きましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

海外研修に参加して

黒磯市青木 熊谷 雄規

今回の(財)栃木県農業振興公社主催、栃木県青年・女性農業者海外派遣研修事業による黒磯市海外派



研修メンバー一同(後列中央:熊谷氏)

遣研修者の募集の話を聞いて、この様なチャンスは二度と無いかもしれないと思い、オランダ・ドイツ・スイス・フランスへの研修旅行に参加させて頂きました。農業に従事して数ヶ月しか経たず、農業のいろはは「も「酪農のいろは」もまだ分からない自分が行って、何を見てくる事が出来るのか、何を習得することが出来るのかという不安を抱えながらの参加でした。

しかし、研修初日の夕食時に団長と同じテーブルになり、「海外研修とは？」という話題が出た時に、団長は「この研修で何を覚える、何を持ち帰り即実践しろというのではない。百聞は一見にしかずという言葉があるように、実際見て聞いて触れるだけでも価値はある。」と言われたのを聞いて、自分の心にあつた気負いが払われ、その後の研修は順調に進みました。特に、フランスのファームステイ先での研修が印象に残っています。そこでは、約一五〇頭の乳牛を飼育しており、この飼育数は我

が家と比較し易い規模でした。乳量・乳質の他、乳価や飼料の自給率、乳肉について等、色々聞く事が出来ました。国や地域の諸事情により日本との違いはありますが、大いに見聞する価値はあったと思います。「好きだから家業を継いだ」という言葉は、研修中最も印象に残りました。

最後に、関係機関並びに酪農とちぎのご支援を頂き、本当にありがとうございました。これからもこの研修で得た経験を胸に、酪農家として仕事に励んでいきたいと思えます。

◆ ◆ ◆

今回参加された皆さんの研修レポートを拝見しますと酪農への情熱と将来に向けた経営者としての自覚を認識され、各自が有意義な研修をされた事と存じます。今後の活躍を期待します。

後継者海外派遣酪農研修制度については、随時受け付けを行っておりますので、所轄支所・事業所までお問い合わせ下さい。



BSE七頭目発生

BSEにつきましては、昨年八月の五頭目で終息かに見えましたが、一月に和歌山県・北海道で相次いで発生し七頭目となりました。和歌山県で発生した患畜牛は北海道から導入されたもので、今回の二頭とも北海道の出生牛です。

これまでに判明した患畜牛の共通している点は、出生期が平成七年十二月から八年四月の間に集中していること、幼令期に同一の代用牛を給与している可能性が高いこと等であり、今後の発生原因及び感染源解明に資するものと考えます。

また、相次いだBSE発生の報道による消費者の反応が懸念されましたが、全頭検査実施で市場に出回っている牛肉の安全性PR並びにBSEに対する知識の浸透が高まったことで牛肉・牛乳販売に大きな影響が表われなかったことは幸いです。

第二回酪農まつり 四月十二日に決まる!

第二回酪農まつり・ホルスタイン共進会の開催につきましては、検討委員会での第一回開催を踏まえ、有意義な酪農まつりにするため検討して参りましたが、十二月度理事会において次のように決定しましたので概要をお知らせ致します。

一、開催期日

平成十五年四月十二日(土)

悪天候による中止の場合は

予備日を四月十三日(日)

なお開催又は中止については

当日朝、「栃木放送」で放送予定です。

二、開催場所

栃木県酪農試験場

(西那須野町千本松二九八)

三、催し物の内容および開催時間

第二回ホルスタイン共進会

出品予定頭数 百五頭

開場 七時

出品牛の搬入・受付

八時～九時半

開会式 九時四十五分～十時

審査 十時～十四時半

第一部 第八部、

名誉賞、ジュニアシヨウ

昼食 十二時～十二時五十分

表彰式 十四時半～十五時

農機具の展示会

ふれあい広場 十時～十四時半

●牛乳普及協会イベント

・バター手作り体験

・牛乳紙パック再利用工作

・乾草お宝探し

・クイズラリー他

●ミニ動物園(子犬、ウサギ等)

●搾乳体験

●子牛の体重当て

●らくがきコーナー

●ビンゴゲーム

●ストラックアウト

●輪投げ大会

●牛乳早飲競争

●完熟堆肥の無料配布

●お楽しみトナリ 十時～十四時半

ワタアメ・ポップコトンの無料配布

●お楽しみ抽選会

*昼食はけんちんうどん・おにぎりを準備します。



東西南北

那須高原支所

第一回牛舎環境調査の終了

「安心・安全・新鮮な高品質乳生産は牛舎環境から」をモットーに、昨年の十二月五日から二十日にかけて、高原支所管内全組合員の牛舎環境調査を行いました。

現在、調査内容の集計を行なっておりますが、集計がまとまり次第報告致します。

宇都宮支所

女性会那須南支部

ボウリング大会開催

昨年末に女性会那須南支部では、ボウリング大会を開催しました。

参加者は十四人と小人数ではありましたが、ミゾ掃除をきちんとした人、ボールと一緒にレーン磨きをした人、一方では、昔取った杵柄で見事なフォームで上手な人とバラエティーに富んだ賑やかなゲーム展開でした。





女性会那須南支部

ゲーム
終了後、
食事を囲
み和気あ
いあいの
懇親会。
帰りには、
恵比寿様
のような
顔で、大黒様のように大きな賞品
袋を担いでの解散となりました。
明後日の筋肉痛が少々気に掛り
ましたが、楽しい一時を送ること
が出来ました。

栃木県南支所

県南支所事業運営協議会を設立

支所事業の企画・実施に当たり、
この度『支所事業運営協議会』を
発足しました。

協議会の構成は、地域酪農組合
から十二名、青年部から四名、女
性会から六名、計二十名が選出さ
れ、会長に上野清氏、副会長に大
阿久要氏が選任されました。

今後の支所事業は、支所事業運
営協議会で協議し運営して参りま
す。

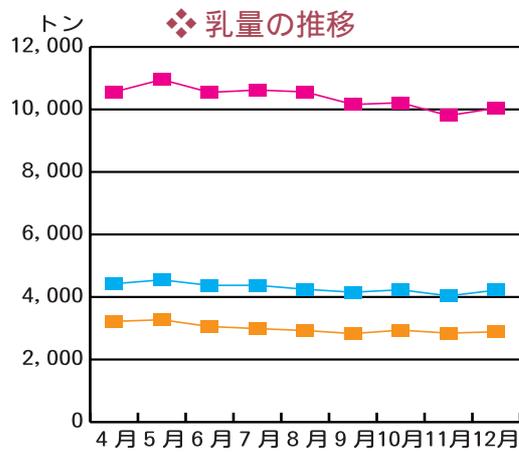
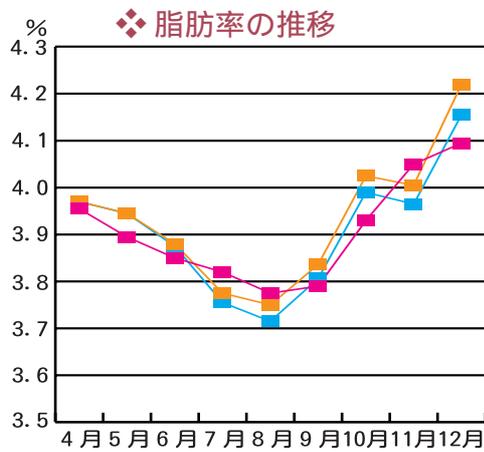
部課だより

生乳販売部

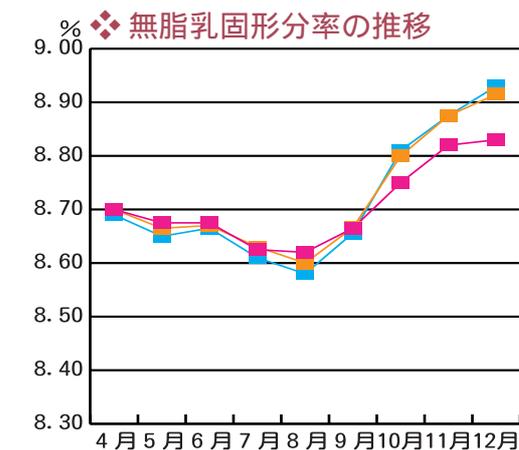
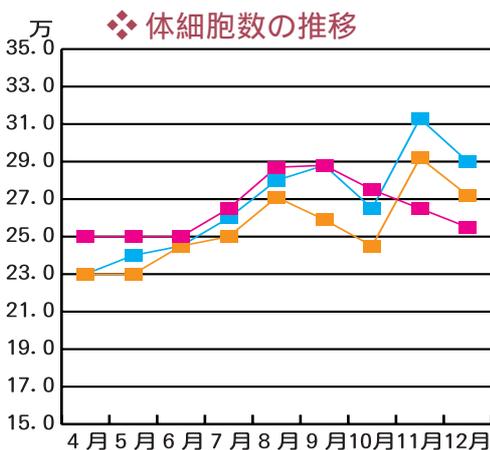
十二年度の販売は、前月に引き
続いて加工発生率が関東生乳販連
において八・二%（前年より四・
三%減）、前年比六十四・三%と大
幅に減少、飲用向け需要が堅調な
状況が続いております。

また、年末年始における余乳処
理も、都府県における生産量が前
年を下回ったことから今期におい
ては比較的発生が少なく、とも補
償乳も発生されず乗り切りました。
本組合の生産量は前月同様に低
迷化にありますが、生産の回復が
待たれるところです。

一方、乳質は成分的・衛生的乳
質とも向上され、特に脂肪率は前
月より〇・一五%上昇しました。
しかしながら、体細胞数は前年
より若干低下しております。



体細胞数については、本組合だ
けでなく関東生乳販連全体でも同
様の傾向にあります。



十二月までの乳量及び乳質成績
の推移は左記のとおりです。



市乳販売部



三回目となる当組合の商品紹介シリーズは、県内のスーパーで販売されている「スワストア酪農3・6牛乳」と「サンユー酪農3・6牛乳」です。

「スワストア」は大田原市を中心に県北に三店舗、「サンユー」は宇都宮市を中心に県央で十店舗を営業しており各店舗で酪農とちぎの製品を販売しております。

この二つのスーパーマーケットは、多くのメーカーの中で、「特に当組合の牛乳がおいしい」と自社の店名を商品名に付け販売頂いております。皆様がまごころ込めて出荷した生乳を、衛生的で万全な品質管理体制の最新鋭工場でパック詰めした商品です。

組合員皆さんも、これらの商品を見かけた事があるかと思えます

が、これからも購入される場合は、「この牛乳の原乳を生産している者です。」と告げて頂ければ店の方々も喜んでくれますので、是非一声かけて下さい。



陳列を待つ製品

酪農部

BSE検査

四月から死亡牛全頭実施

先日国内七頭目のBSEが確認されましたが、すでにお知らせしましたように、二十四ヶ月以上の死亡牛の届出が義務づけられております。また、四月からは二十四ヶ月以上の死亡牛全頭に検査を行うこととなります。

検査の実施に当たりましては、

「牛海綿状脳症（BSE）対策特別措置法」に基づき行われるものです。本県におきましても、死亡牛緊急処理円滑化施設整備事業」に基づき、BSE検査の円滑化及び死亡牛の適正処理体制の確立に向け準備を進めているところです。近々に新事業の内容等が示されますが、本組合におきましては通知と合わせ説明会を予定しております。

1月ホクレン初妊牛市場成績

（単位：頭、千円（税込））

市場名	開催日	成立頭数	平均価格	~300					501以上									
				~300	301~350	351~400	401~450	451~500	~300	301~350	351~400	401~450	451~500	501以上				
豊富	1月16日	285	461	5	2	23	69	137	49									
根室	1月17日	386	469	1	6	28	81	162	108									
釧路	1月18日	210	477	0	2	7	35	100	66									
十勝	1/21-22	598	468	6	22	76	98	210	186									
北見	1月23日	234	479	0	12	19	40	63	100									
合計		1,713	470	12	44	153	323	672	509									
前月		2,342	438	46	130	372	756	752	286									
前年同月		1,712	427	13	96	376	657	471	99									

家畜市場成績

市場名：西那須野市場

単位：円

開催期日	1月15日				
種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均
ホルス雄	103	-	56,700	3,150	30,358
F1雄	68	-	155,400	14,700	108,582
F1雌	61	-	89,250	13,650	53,395

市場名：館林市場(群馬)

単位：円

開催期日	1月17日				
種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均
ホルス雄	14	67	52,000	12,000	42,643
F1雄	16	68	170,000	3,000	116,375
F1雌	22	67	127,000	56,000	85,682



十二月度理事会

報告事項

- (一) 専門委員会協議事項報告
- (二) 農業近代化資金貸付について協議事項
- (一) 十一月度事業実績について
- (二) 平成十五年度生乳計画生産について
- (三) 平成十五年度生乳出荷奨励金制度及び乳質保全規程細則の一部改訂について
- (四) 乳牛導入資金貸付について
- (五) 第二回酪農まつりについて
- (六) 諸規程の変更について

専門委員会だより

十一月二十五・二十六日及び十二月十六日に開催された各専門委員会の協議内容は次のとおりです。

総務委員会（大阿久委員長）

- 一 上半期監査指摘事項について
 - 二 諸規程の変更について
 - 三 地域合理化計画の進捗状況について
 - 四 出資金造成計画について
- #### 市乳販売委員会（粕谷委員長）
- 一 上半期監査指摘事項について
 - 二 東京明販株との取引契約について
 - 三 上期事業推進について
- #### 生乳販売委員会（松原委員長）
- 一 上半期監査指摘事項について

- 二 平成十五年度事業計画について
- 三 乳質保全規程細則の改訂について
- 四 集乳車のリース契約について
- 五 平成十五年度需要期出荷奨励制度について

酪農委員会（齋藤委員長）

- 一 上半期監査指摘事項について
- 二 平成十四年度配合飼料及び混合飼料供給量別利用奨励金の暫定払いについて
- 三 平成十五年度配合飼料及び混合飼料供給量別利用奨励措置の実施について
- 四 平成十五年度生乳生産対策について
- 五 購買事業利用推進について
- 六 乳牛導入資金貸付について

春夏秋冬



未年^{みづとと}にちなんで羊にまつわる話題を少々。

羊は人間の生活に古くから関わってきた、人間にとって無くてはならない動物であったことは皆さん良くご存知のことと思います。漢字にも羊の字が使われた文字が多くありますが、その代表的なものを幾つかあげてみますと、群れるの文字はまさに羊の習性を表していますし、栄養とか扶養の文字のやしなうの部分は羊の下に良と書

きます。また羊に我と書いて義理とか忠義をあらわす義の文字であり、大きい羊と書いて美しいとなります。このように羊は人間に貢献してくれた感謝の気持ちとしてこのよいうな文字がたくさん生まれたと考えられています。

毛は繊維として、毛皮は衣服・敷物として、肉はもちろん食用として人間は羊の体の全てを衣食住に利用してきた歴史を文字にも色濃く残しております。

この春は地方自治体の選挙が予定されております。県議選及び市町村長・市町村議会議員選などで

すが、それらの選挙の該当する地域においてはすでに前哨戦が始まっている模様、組合員の中にも当事者となる方、また関係者の方々も多くいらつしやいます。皆様のご健闘をお祈りいたします。

寒い寒いと云っているうちに二月に入り、二日は初午、三日は節分、四日立春と春の足音が聞こえてくる気配がします。

そろそろ農作業の準備にからねばと気ぜわしくなる季節がやって参りました。季節の変わり目には皆様も体調をこわさないようお気を付け下さい。(W)

編集後記

酪農とちぎとして二年目を迎え、反省と改心に思いを入れ節分で今までの邪気を全て祓う豆まきによる追儺に大声を張り上げました。「鬼は内、福も内、悪魔外」と唱え、この一年の更なる発展と無病息災を願懸け鬼王の魔力で福多い年になりますよう祈り自分の年の数だけ豆を食べました。大いに御利益を期待するところです。

二月は「梅のつぼみもまだ堅いようですが…」などと冒頭に述べる様に、日本という国は天気、気候が決り文句の如く挨拶に用いられます。幼少の頃は「他にネタ無いのかな」といった具合に校長の長話を聞いていたものです。しかし、この現象について考えてみると日本は非常に恵まれていることに気付きます。もし年中晴れていて、夏しかない国であれば「本日は晴天に恵まれ」とは言わないはずだからです。バラエティに富んだ季節・天気を楽しめる日本だからこそではないでしょうか。(A)

